

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
電話/FAX：03-5740-9505 e-mail：最後のページ参照
日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

第25回通常総会及びシンポジウム開催のご案内(第二報)

第25回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予定下さい。

記

1. 日時 2009年6月20日(土) 10:00~16:00(受付9:30より)
10:00~12:00 研究報告及びディスカッション
(詳細は、本ニューズレター3ページをご覧ください)
12:00~13:00 総会
総会終了後 理事・評議員会
14:00~16:00 シンポジウム
(詳細は、本ニューズレター3ページをご覧ください)
2. 会場
東京大学 福武ホール 東京都文京区本郷7-3-1
<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/>
○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分 ○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分
○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分 ○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分
3. 総会の議事
第1号議案 2008年度(2008.4.1-2009.3.31)事業報告及び収支決算承認の件
第2号議案 2009年度(2009.4.1-2010.3.31)事業計画及び収支予算案承認の件
第3号議案 会長, 理事, 監事, 評議員の選任の件

以上

本号目次

総会及びシンポジウム開催のご案内(第二報).....	1	冬の合宿研究会報告.....	16
随感.....	2	産学協同セミナー報告.....	18
シンポジウムのご案内.....	3	理事会議事録.....	18
全国大会のお知らせ(第二報).....	4	新入会員等.....	20
研究会の開催案内/発表募集/報告.....	13		

随感

－工学の立場からの研究・実践者として－

副会長 矢野米雄（徳島大学）

教育工学の分野は学際であり、種々の専門分野の研究者、教育者が集まってきている。私は、工学の出身であり、今も工学部に身を置いており、工学的視点から教育工学を見、アプローチもそのような立場から行ってきた。現在の教育工学会の論文誌を見ると、技術開発、システム開発論文の掲載が比較的少ないと感じるのは、私だけだろうか。もちろん、教育と工学、2つの立場からのアプローチがあり、それらを融合することに意味があり、従来から言われているように、技術中心であるTechnology Pushではダメであることは理解できる。しかし、昨今の技術の発展は目覚ましいものがある。情報通信分野のあらゆる技術の進歩と普及が加速しているのが現状である。そこで、技術に軸足を置いた教育システム開発関係の分野の本学会でのさらなる充実と拡大を願っているものである。

2年前よりスタートした日本教育工学会が取り組むべき重点研究として、3つの項目が挙げられた。その1つとして、「新しいICT技術教育システムの開発に関する研究」が重点項目としてある。それから2年経ち、e-Learningの普及など、教育におけるICTの利用等は着実に進んでいると考えられる。しかし、本学会では上述のように、それらに関する論文が多く掲載されていないのが現状である。幸い平成22年度の特集号テーマとして、「学習・教育支援のための技術開発論文特集」の企画を編集委員会（清水康敬編集長）でご承認頂いた。併せて、これを機会に「教育システム開発論文」とは何か、またそれらに対する論文査読は他の査読とどう違うのか議論も行ってきている。この特集号を機会に、「教育実践論文」と共に査読方法も含め公表して頂くことになっている。

以下、この場を借りて、特集号で募集する対象分野を挙げさせて頂く。

- (1) 新しい学習・教育支援技術の設計・開発（Webテクノロジー、データマイニングなどの利用）
- (2) 学習・教育支援のための既存要素技術の新しい組み合わせや新しい活用
- (3) 学習・教育支援システムのためのユーザインタフェース構築（認知的アプローチも含む）
- (4) 学習・教育支援システム評価技術
- (5) 学習・教育支援システム運用技術（LMS、学習者認証、ポートフォリオ、インフラなど）
- (6) 学習・教育の質向上を目的とした要素技術・システムの開発
- (7) その他、学習・教育支援技術開発に関する研究

上記の列举でも分かるように、教育工学会の過去の特集号とは大きく異なり、教育システム開発、技術を中心に幅広く論文を募集している。

特集号論文募集は、2010年2月8日締切予定のため、時間的には十分間に合います。教育システムを開発されている研究者の皆さん、どうか教育工学の分野の発展のためにも「学習・教育システム開発」の論文としておまとめ頂き、ご投稿をお願いする次第です。

6月シンポジウムのご案内(第二報)

日 時：2009年6月20日(土) 10:00～16:00(受付9:30より)

場 所：東京大学 福武ホール 東京都文京区本郷7-3-1

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/>

○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分 ○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分

○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分 ○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分

参加費：500円(資料代)

申込方法：当日受付にて直接お申し込みください。

【午前の部：10:00～12:00】研究報告・ディスカッション(主として学会員向け。ただし非会員の方の参加も可能)

■テーマ 教育工学会重点3領域研究と今後の課題

■ねらい 日本教育工学会では2006年からの3年間、以下のような3つの領域の研究を重点項目としてとりあげ、課題研究や合宿研究会、シンポジウムなどのテーマとして奨励してきました。ここでは、この数年間の各領域における研究を振り返り、今後の課題を検討し、会員とともに議論したいと考えます。

■コーディネータ・司会 赤堀侃司(東京工業大学)

- 登壇者
- | | |
|----------------------------|--------------|
| 1. 新しいICT・教育システムの開発に関する研究 | 矢野米雄(徳島大学) |
| 2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究 | 永野和男(聖心女子大学) |
| 3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究 | 野嶋栄一郎(早稲田大学) |

【通常総会：12:00～13:00】

【午後の部：14:00～16:00】シンポジウム(会員及び一般参加者向け)

■テーマ 学力の評価について考える

■ねらい 国際レベルで実施されるPISAやTIMSS、全国レベルで実施される教育課程実施状況調査、全国学力・学習状況調査。そして、各地域や学校が独自に実施している学力調査など、様々な学力調査結果が教育現場や社会に示されています。これらのデータを生かすには、それぞれの学力調査が測定している学力を分析し、自らの教育や教育施策の成果と課題を把握して改善を図っていく継続的な検証・改善サイクルを確立することが必要です。そのことについて、教育工学が貢献できることや教育工学に期待されることについて議論を深めることで、実際に、児童生徒への教育指導や学習状況の改善、教員の指導力向上と授業改善、学校運営の見直しに役立てるためのデータの分析法、活用法等を探ることをねらいとします。

■司会 未定

- 登壇者
- | | |
|-------------|----|
| 学力評価を管理する立場 | 未定 |
| 学力を分析する立場 | 未定 |
| 学力評価を研究する立場 | 未定 |
| 学力評価を受ける立場 | 未定 |

日本教育工学会 第25回全国大会のお知らせ（第二報）

日本教育工学会第25回全国大会を、下記のように東京大学（本郷キャンパス）において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2009年9月19日(土)～21日(月)（3日間）

会場：東京大学（本郷キャンパス）〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分 ○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分

○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分 ○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html

後援：文部科学省（予定）、東京都教育委員会（予定）

2. 大会日程

第1日 9月19日(土)	第2日 9月20日(日)	第3日 9月21日(月)
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食、各種委員会	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～14:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:50～17:50 一般研究発表2	14:45～17:30 シンポジウム2	14:00～16:30 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	18:00～20:00 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。展示会も開催されますので、ぜひ見学にお立ち寄りください。

3. 各セッションについて

（1）シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A

新学習指導要領のスタートに向けて、「教育の情報化」のために教育工学は何をすべきか
コーディネータ（五十音順、以下同様）：野中陽一（横浜国立大学）、東原義訓（信州大学）

学習指導要領の改訂に合わせ、これまでの「情報教育に関する手引」が「教育の情報化に関する手引」となって平成21年3月に公表された。新学習指導要領及びその解説の記述において、教科指導におけるICT活用や情報教育、情報モラルの育成など、教育の情報化に関わる内容について一層の充実が図られていることは、「教育の情報化」の各要素が「教育の質の向上」において重要な位置付けにあることを示している。本シンポジウムでは、この「学習指導要領における教育の情報化」を踏まえた上で、諸外国と比較して、普及がなかなか進まない我が国の「教育の情報化」のために、教育工学は何をすべきか、何ができるのか、異なる立場のパネリストと参加者によって議論を深めたい。

シンポジウム1B

ICTを利用した教育・学習システムの目標設定と評価法

－研究の「モザイク」から「るつぼ」への発展を目指して－

コーディネータ：柏原昭博（電気通信大学）、平嶋宗（広島大学）、室田真男（東京工業大学）

ICTを利用した教育・学習システム研究は、教育・学習という同一の現象を対象とはしているものの、そのアプローチやゴール設定は多様である。従って、それらの成果を広く共有することは必ずしも簡単ではなかった。例えば、主眼点が教育的実践である場合、技術的な新規性や有効性である場合、心理学的な妥当性や検証である場合では、研究の目標設定と評価法は異なっており、立場を超えた成果の活用は十分には行われていない。それぞれの立場からの研究がある程度成熟をむかえた今日、それらの研究成果を融合してゆく役割を教育工学が求められ始めている。本シンポジウ

ムでは、このような研究の「モザイク」から「つるぼ」への一つの端緒となることを目指して、教育・学習システム研究のいくつかの立場から、ゴール設定とその評価法について議論を深めたい。

シンポジウム2

変革をささえる教育工学：サステナビリティとスケーラビリティ

コーディネータ：木原俊行（大阪教育大学），中原淳（東京大学）

教育工学研究は、教育現場の変革に資することをめざす「実践志向」の学問である。「実践志向」の意味するところは様々な解釈が可能であるが、近年の学習研究で注目されている問題のいくつかは、サステナビリティ（sustainability：持続可能性）とスケーラビリティ（scalability：普及性）の問題がある。サステナビリティとは、ある現場で試みられた変革が、外部からの介入をなくしても、自律的に維持されうることをさす。対して、スケーラビリティとは、ある現場で実施された変革が、他の現場に普及することである。教育工学が「実践志向の学」であることを標榜するならば、これらの問題にいかに向き合うべきなのか。本シンポジウムでは、初等中等教育、高等教育から各2つずつ研究事例を報告していただきつつ、会場の参加者をまじえて議論したい。

（2）課題研究

本大会では公募で寄せられたテーマを含めて大会企画委員会で検討した結果、次の8件のテーマを予定することになりました。発表希望者にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご注意ください。

■K-1 新しい技術・メディアを活用した教育支援システム：

未来の学習環境のデザインとチャレンジ

コーディネータ：緒方広明（徳島大学），竹中真希子（大分大学）

テクノロジーの進歩は、人の学びを支援する多様なツールを提供し、新たな可能性を生み出す。モバイルメディア、センサネットワーク、RFIDタグなどを活用した教育支援の試みはさまざまな方法で数多く試みられている。これまでに、フォーマル・インフォーマルエデュケーションのいずれの領域においても、その有効性や利用可能性が追求されてきており、すでに発展的段階に突入している。また、昨今では、Web2.0の技術やライフログをプラットフォームとした学習支援も、注目されている。さらに、ロボットやエージェントの教育分野での活用にも、関心が集まってきている。本セッションでは、このような、未来の学習環境デザインを見据えた、教育を支援する新しい技術やメディアの活用に関係する提案・開発・実践研究を幅広く募集する。

■K-2 協調学習を支援するシステム・実践のデザイン

コーディネータ：大島純（静岡大学），加藤浩（放送大学）

協調学習支援システムがいくつかの研究グループによって開発・活用されている。また、既存の電子掲示板やSNSなどのシステムを活用した実践も多数行われている。しかし、各グループの活動は個別的である。本課題研究では、システムを開発、あるいは教育実践の中で活用している研究グループから、立脚する学習観・教育観や、理想とする学習コミュニティ、そのような理想へと学習者を方向付けるための手だて（支援機能や足場掛けなど）、評価方法、PDCAのサイクルなどについて多様な報告を募集する。そして、各システムや実践の特徴や利点・欠点を明らかにすることを求め、機能的要件や実現方法、実践のデザイン原則に関する知見として昇華させることを目指す。これらの成果を踏まえて、グループ間の連携や、各システムの接続性などを模索したい。

■K-3 ゲーム・シミュレーションを利用した教育：現状とこれから

コーディネータ：栗山健（学習研究社），清水悦幸（内田洋行），山田政寛（金沢大学）

世界的に教育にゲームを利用する実践や研究が徐々に増えてきている。教育工学系の国際会議を運営している組織の1つでもあるAssociation for the Advancement of Computing in Education (AACE)でも、教育ゲームの設計手法や新たな情報技術を使用した教育ゲーム開発等の研究、また教育現場に幼児向け教育ゲームやシリアスゲームなどを導入した実践など幅広い研究・実践報告が

されており注目されている。日本でも携帯型ゲーム機を教育現場に導入するといった実践や教育向けゲームの開発も活発になってきており、これから注視していくべき教育工学の分野と言える。本セッションでは教育ゲームの設計・開発から、学習効果の測定、教育現場におけるゲーム・シミュレーション利用と言った実践研究まで、教育とゲーム・シミュレーションに関する研究を幅広く募集する。

■K-4 授業研究と教師の力量形成

コーディネータ：柴田好章（名古屋大学）、田中博之（早稲田大学）、南部昌敏（上越教育大学）

今日、社会から学校への信頼の揺らぎや、教員の大量退職と新任教員増加等が進行し、教師の力量形成が特に重要な課題になっている。教師に求められる力量も、教材開発・授業デザイン、発問等の教授スキル、適切な意思決定や評価等、以前から重視されてきたものに加え、問題解決等の教科横断的な能力を育成する力、情報メディアを活用した授業を展開する力、子どもの様々な問題に気づき対応する力、学校外の人々と連携する力、教育の成果を事実と論理に基づき説明する力等、拡大してきている。本課題研究では、力量形成における授業研究の可能性と課題を明らかにし、今後の指針を見出したい。力量形成のための授業研究の事例、力量の評価法、研修方法の提案やツール開発、教職実践演習や免許状更新講習の実践研究等、効果的で魅力的な研究を幅広く募集する。

■K-5 学校のICT化を推進する人的環境

コーディネータ：中川一史（放送大学）、野中陽一（横浜国立大学）

教育の情報化に関する手引において、教育委員会・学校における情報化の推進体制が示され、教育の情報化を推進するための人的環境の重要性が指摘された。本課題研究においては、人的環境とその体制、役割等を含め、教育委員会・教育センターや学校、大学等の支援の在り方等に関する研究及び優れた事例を紹介いただき、それらの比較検討を通して、ポイントを協議したい。情報化の統括責任者としての教育CIO、CIO補佐官の機能や役割、学校CIOとしての管理職の機能と校内の推進体制、学校における情報担当リーダーの役割、教員をサポートするICT支援員の学校での活用や教育委員会・教育センターの体制整備の在り方等、多様な視点からの発表を期待する。

■K-6 eポートフォリオー初等教育から高等教育までー

コーディネータ：小川賀代（日本女子大学）、永田智子（兵庫教育大学）

2008年4月に中央教育審議会が出された「教育振興基本計画」では、初等・中等・高等教育にわたって質の保証・向上が掲げられている。このような状況の中、学習成果の評価として、学びの履歴を蓄積し、形成過程を可視化できると言われているポートフォリオが注目を集めている。また、eラーニングの普及に伴い、ICTを活用した教育・学習が日常化し、より効果的な活用が求められる中、eポートフォリオの導入が進んでおり、学習評価だけでなく、FDやキャリア支援などにも活用範囲を広げている。そこで、今回初めて課題研究としてeポートフォリオを取り上げ、多様な視点からの情報交換を行うことにした。本課題研究では、初等教育から高等教育を対象としたeポートフォリオのシステム開発、実践、評価研究ならびにレビュー研究など幅広い応募を期待する。

■K-7 新学習指導要領における情報教育とICT活用

コーディネータ：小泉カー（尚美学園大学）、高橋純（富山大学）

告示された新学習指導要領では総則において情報教育の重要性が謳われており、各教科の指導において児童生徒の情報活用能力を育成することが記されている。また、教員が授業でICTを有効に活用して「わかる授業」を実践することについても示されている。本学会ではこれまで教育におけるICT利用に関して様々な研究や実践報告がされてきたが、学習指導要領が改訂されたことを機に、初等中等教育における情報教育及び教員のICT活用実践について、今までの研究結果と実践報告を踏まえて改めて議論する必要があると考える。本課題研究では、高校「情報」、中学校「技術・家庭」、「総合的な学習の時間」などに限らず様々な教科での情報教育、そして教員の授業におけるICT活用など、教育工学が関わるべき分野についての実践や研究の成果を期待したい。

■K-8 高等教育・FDにおける教育工学の役割

コーディネータ：石川真（上越教育大学）、森田裕介（早稲田大学）

2008年度からファカルティ・デベロップメント（FD）が義務化され、大学における授業改善の取り組みが数多く行われるようになってきた。国際的な高等教育の質保証に関する議論も進展しており、今後、高等教育分野やFDにおける教育工学の役割は、さらに重要になってくると考えられる。また、この数年、高等教育やFDに関する研究報告も増加しており、教育工学の立場から十分な議論が求められる時期にきていると考えられる。そこで、本課題研究では、高等教育やFDの現状について把握するとともに、実践的な取り組みについて研究発表を行う。そして、高等教育の質保証を鑑み、高等教育やFDに対して教育工学は何ができるのか、何をすべきか議論する。

（3）一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

なお、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育Ⅰ(情報活用能力の育成等) (3)情報教育Ⅱ(教科指導等) (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護・福祉教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発・評価 (14)学習コンテンツ開発・評価 (15)遠隔教育・遠隔学習 (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践 (18)教育メディア (19)e-Learning (システム) (20)e-Learning (運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)ワークショップ (23) その他

（4）International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

（5）ワークショップ

本大会では新たな試みとしてワークショップを実行委員会が中心となって開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております。ワークショップは参加者主導で進めていただきます。時間（1時間30分）の使い方は参加者にまかされます。予稿の用意は必要ありません。

テーマは公募といたします。大会実行委員会では5～10件程度を想定していますが、会場の関係上応募多数の場合は調整させていただくことがございますのであらかじめご了承ください。議論を通じて、教育工学に関心を持つコミュニティが作られ、発展していくことを期待しています。積極的なご応募をお待ちしております。

応募のスケジュール：

6月1日～30日 ワークショップ テーマ受付期間

7月14日 ワークショップ テーマ決定（応募多数の場合、採否結果通知を致します）

応募方法・応募先：

電子メールにて、ワークショップ主催者の氏名、ご所属、メールアドレス、ワークショップ名と概要（300字程度）を日本教育工学会第25回全国大会実行委員会事務局（jset-conf@altut.org）までお送りください。

なお、件名は「ワークショップ応募」としてください。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究]課題研究の趣旨説明10分，研究発表各15分，総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表10分，質疑応答4分

※ 例年より一般研究の口頭発表の発表時間が短くなっています
<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は60分）

[International Session]発表13分，質疑応答5分

4. 大会までのスケジュール

4月中旬		課題研究発表プロポーザル募集開始
6月25日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月30日	火	ワークショップテーマ受付締切
7月9日	木	課題研究発表の採否決定通知
7月16日	木	発表者の参加費事前送金締切（郵便振り込みの場合）
7月23日	木	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払いの場合） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出 一般研究発表/International Session申込書・原稿（2ページ）提出 ※17:00が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは、7月28日17時まではWeb上で可能です。（電子メールによる差し替えは認められません）。
7月28日	火	提出原稿の差し替え締切（17時厳守。以降の原稿の提出は一切受け付けません。）
8月20日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振り込みの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）
8月27日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払いの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）

5. 大会への発表申し込み等

（1）発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含まれます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSET大会ホームページ (<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>) にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。
- ・維持会員に所属する者は最大3名まで個人会員として加入しなくても発表ができます。これに該当する発表者を事前に登録しますので、7月16日までに学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) にご連絡ください。この期限を過ぎた後の受付はできませんので、ご注意ください。

（2）発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に一般研究にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月25日(木)17:00までに提出してください。
- ・ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に決めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSET大会ホームページでお伝えします。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月9日(木)までに申し込み者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSET大会ホームページに示される内容に従って作成してください。
- ・JSET大会ホームページから、7月23日(木)17:00までに、最終原稿ファイルを送信していただきます。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及び International Session の発表申し込み方法

- ・7月23日(木)17:00までに、JSET大会ホームページから原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。JSET大会ホームページに示される指定に従って作成してください。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

(5) CD-ROMの作成について

今大会の論文集から、冊子体のものに加えて、論文本文の文字列検索が可能なCD-ROM (PDFファイル) を作成することになりましたので、ファイル提出時の注意にしながら提出してください。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

【重要】 原稿ファイルの提出に関するお願い。

今回から、論文集のCD-ROMは、論文本文中の文字列の検索が可能になる方法で作成します。このために、次のご協力をお願いいたします。

PDF/X-1a形式による提出: (PDF/X-1a形式の説明は:<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>)

PDF/X-1a形式で提出していただきます。また、PDFだけでなく、元ファイル (MS-Word形式や一太郎形式のファイル) も提出していただくこととなります。TeXで作成される場合でも、フォントの埋め込み処理が行われていないことがありますので、ソースファイルすべてをひとまとめにして (アーカイブ形式等) で提出していただくこととなります。

著者は、大会ホームページに掲載される方法に従ってファイルを作成してください。提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、大会企画委員会では一切行いません。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp) までご連絡ください。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません(学会から提供する発表リストから削除します)。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

6. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

(1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、事前支払期限までに送金してください。事前支払期限は、発表者の場合、郵便振替の場合は7月16日(木)、クレジットカード支払いの場合は7月23日(木)です。発表者以外の方は、郵便振替の場合は8月20日(木)、クレジットカード支払いの場合は8月27日(木)です。

参加費 正・准・名誉会員	2,500円 (当日は4,000円)
学生会員	1,500円 (当日は3,000円)
非会員	3,000円 (当日は4,000円)
懇親会費	5,000円 (当日は6,000円)
講演論文集代 (CD-ROM付)	6,000円 (当日も6,000円)
講演論文集の送料 (参加されない場合)	1,000円

事前支払期限以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます。なお、事前支払期限までに発表者の参加費及び2009年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消しとなりますので、ご注意ください。

8月27日(木)までの変更については、返金は致しませんが、送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます。学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) までご連絡ください。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金等ができないことをご了解ください。

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかった場合には、その旨を学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) までご連絡ください。論文集をお送りします(送料は参加費で補填いたします)。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい。

(2) 事前の送金と参加登録について

会員と非会員で参加費等が異なります。JSET大会ホームページの「参加申し込み」ページにアクセスしてください。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

なお、事前に送金をしていただける場合は、クレジットカード支払いと郵便振替のどちらかの方法をご利用下さい。

① 「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・前述の「参加申し込み」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択してください。
- ・ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) に、電子メールでご連絡ください。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

② 「郵便振替」の場合

- ・会員が郵便振替で送金される場合も、「参加申し込み」ページで、「郵便振替」を選択してください。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を学会からニューズレターと一緒に送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金してください。なお、必ず会員番号をお書きください。
- ・学会事務局では入金確認後に、会員データベースに入力します。郵便局の窓口から送金されてから1週間から10日かかりますので、送金日はそれを考慮してください。
- ・不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意ください。

③ 「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前に行っていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・この場合、「参加申し込み」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択してください。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・登録内容が自動的にメールで送信されますので、それをプリントして当日会場受付にお出しください。当日参加票に記入する必要がなくなります。

(3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を9月上旬までにお送りします（予定）。

- ・クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月上旬までに、「大会受付票」「大会参加証（名札用）」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上、その旨お申し出ください。

(4) 当日の受付について

①事前送金済みの場合

- ・大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・プリントして持参していただいた「大会参加証（名札用）」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・大会受付票を持参されなかった方は、「当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出ください。
- ・送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合は、「総合受付」でお受けします。

②当日参加の場合

- ・当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ちください。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

(5) その他

- ・学生割引は本学会の正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・名札ケースは、最終日のお帰りの際に、ご返却下さい。

7. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備（プロジェクタ）が利用可能です。口頭発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示用パネルを用意します。また、パネル前に長机（高さ70センチメートル程度）を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のパソコン等を置くことが可能です。ポスター発表会場にはインターネットにアクセスできる環境と電源が用意されています。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学 情報学環・福武ホール 気付
日本教育工学会第25回全国大会 実行委員会事務局 宛
電子メールでの問い合わせ先：(jset-conf@alut.org)

8. 企業の展示について

大会期間中、企業による製品等の展示も行います。

出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせください。

なお、出展・広告申し込みの第1次締め切りは、6月19日(金)です。

9. 宿泊について

各自で手配願います。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会 問い合わせ用電子メールアドレス：taikai2009@jset.gr.jp

大会企画委員会

委員長：東原義訓（信州大学）

副委員長（五十音順，以下同様）： 木原俊行（大阪教育大学）， 室田真男（東京工業大学）

幹事：石川真（上越教育大学）， 森田裕介（早稲田大学）

委員：大島純（静岡大学）， 緒方広明（徳島大学）， 小川賀代（日本女子大学），

柏原昭博（電気通信大学）， 加藤浩（放送大学）， 栗山健（学習研究社），

小泉力一（尚美学園大学）， 柴田好章（名古屋大学）， 清水悦幸（内田洋行），

高橋純（富山大学）， 竹中真希子（大分大学）， 田中博之（早稲田大学），

中川一史（放送大学）， 永田智子（兵庫教育大学）， 中原淳（東京大学），

南部昌敏（上越教育大学）， 野中陽一（横浜国立大学）， 平嶋宗（広島大学），

山内祐平（東京大学）， 山田政寛（金沢大学）

担当副会長：野嶋栄一郎（早稲田大学）

アドバイザー：清水康敬（東京工業大学）， 赤堀侃司（白鷗大学）

研究会の開催

研究会
2009

テーマ ICTを活用したFD／一般

- 日 時：2009年 5月16日（土）
- 会 場：徳島大学（常三島キャンパス 工学部共通講義棟（K棟）
（〒770-8506 徳島市常三島町2-1）
- 担 当：金西計英（marukin@ait.tokushima-u.ac.jp） Tel: 088-656-7285（直通）

プログラム

発表時間：発表1件につき25分（発表20分程度，質疑5分程度）

A会場（K302教室）, B会場（K303教室）, C会場（K304教室）

10:00-10:05 諸連絡

10:05-11:45 午前の部

- A1) 高等教育初任者教員の不安・孤独感を緩和する対話システムの開発
重田勝介（東京大学），館野泰一（東京大学大学院），大川内隆朗（早稲田大学大学院），
福山佑樹（東京大学大学院）
- A2) 『授業実施のPDCSAサイクル』を基盤としたFDシステムの構築
江本理恵・後藤尚人（岩手大学）
- A3) FD Commonsによる教育改善の展開
加藤由香里・寶理翔太郎・梅田倫弘・塚原渉・江木啓訓・中川正樹（東京農工大学）
- A4) FDの一環としての授業収録・オンデマンド配信の実施と試行的評価
尾澤重知・牧野治敏・岡田正彦・西村善博（大分大学）

B1) Application of Stochastic Modeling to Study Support Policy in e-learning

中村正治（金城学院大学），中山恵子（中京大学），中川覃夫（愛知工業大学）

B2) キャンパスSNSを活用したキャリア開発力支援

嵯峨山和美・金西計英・松浦健二・久米健司（徳島大学），三好康夫（高知大学），
矢野米雄（徳島大学）

B3) パーソナルブランド構築とキャリアデザインのためのプレゼンテーションデザイン教育

武田亘明・柿山浩一郎（札幌市立大学）

B4) タッチスクリーンを活用した数学のWeb学習支援システムの実装

郡司貴之（湘南工科大学）

C1) これからの子どもに求められる能力にかかわる一考察

ー全米教育技術能力基準・生徒版に対するイメージ調査ー

波多野和彦（江戸川大学），奥野雅和（京都文教高等学校），山路進（日本私学教育研究所），
三尾忠男（早稲田大学），坂元昂（日本教育工学振興会）

C2) ウェブサイトを活用した英語学習者による語彙データの構築とその評価

平田洋子（北海学園大学）

C3) 協同学習と脳科学：言語課題遂行時の脳血流を中心に

木下徹（名古屋大学大学院），宮本節子（兵庫県立大学），今井裕之（兵庫教育大学），
西尾由里（茨城大学），Mark Taylor（兵庫教育大学）

C4) コラボレーションの心理学ーその科学と極意ー

柏木肇（電気通信大学大学院）

12:45-12:50 委員会挨拶・諸連絡

12:50-14:30 午後の部第一部

A5) FD促進のための3分間コンテンツの開発

佐藤万知・松本喜以子（青山学院大学）

A6) ICT活用教育のFD

松本喜以子・佐藤万知・渡辺雄貴（青山学院大学）

A7) ユビキタス技術を用いて教室での授業を演出する試み

光原弘幸・伊勢直史・松井俊憲（徳島大学大学院），金西計英（徳島大学），
矢野米雄（徳島大学大学院）

A8) 米国の大学におけるラーニング・コミュニティの視察報告

酒井浩二（京都光華女子大学）

-
- B5) 教職大学院におけるミドルリーダーのメンターリング力育成プログラム
小柳和喜雄 (奈良教育大学大学院)
- B6) 一般社会人を対象とした学校広報に関するオンライン意識調査
豊福晋平 (国際大学)
- B7) 教員研修Web総合システムの継続利用における受講者の満足度とICT活用指導力向上に関する検討
山本朋弘 (熊本県立教育センター), 本多博 (長崎県教育センター), 堀田龍也 (玉川大学),
清水康敬 (東京工業大学)
- B8) タブレットPC活用の漢字学習授業における児童の意識と教員のICT活用指導力の向上
清水康敬 (東京工業大学), 山本朋弘 (熊本県立教育センター),
寺下清・角田佳隆 (和歌山市立教育研究所), 西嶋美保子 (マイクロソフト)
-

- C5) 地域教育ネットワークによる接続教育講座の構築
－ 高大連携校からの入学予定者向け「コミュニケーションリテラシー」－
小椋理子・伊藤善隆・田村新吾・岩崎敏之・藤澤みどり・高橋可奈子 (湘北短期大学),
原満 (川崎市立川崎総合科学高等学校), 住谷勉・佐藤明宏 (神奈川県立藤沢高等学校),
小林久美子 (神奈川県立有馬高等学校), 石田英弥 (早稲田大学大学院)
- C6) データマイニングによる複数の特徴的なコラボ集合の抽出とその分類手法について
柏木肇 (電気通信大学大学院)
- C7) LTSPシンクライアントシステムの旧型コンピュータへの適用と教育活用
島田啓史・丹羽次郎 (日本工業大学)

14:45-16:25 午後の部第二部

- A9) 情報の仕組みの見える化による教材開発
渡辺健次 (佐賀大学), 山田成仙 (佐賀県立塩田工業高等学校)
- A10) 小学校における組織的な授業研究の推進に関する研究
－ 授業研究を活性化させるためのシステムの構築－
細見隆昭 (兵庫教育大学大学院)
- A11) 一斉指導での活用を想定した教授活動ゲームの新機能
松田稔樹 (東京工業大学大学院)
- A12) 教員に求められる力にかかわる一考察－教員免許状更新講習のワークショップから－
奥野雅和 (京都文教高等学校), 波多野和彦 (江戸川大学)
-

- B9) 情報源探索および比較に着目した司書教諭のメディアリテラシー実践
福本徹 (国立教育政策研究所)
- B10) 情報活用スキルの指導の継続が児童の習得度に及ぼす効果
塩谷京子 (関西大学), 堀田龍也 (玉川大学)
- B11) メディアに対する批判的思考育成プログラムの開発
後藤康志 (新潟医療福祉大学), 丸山裕輔 (五泉市立大蒲原小学校),
高橋健 (新発田市立外ヶ輪小学校), 小林亨・間嶋雅樹 (新潟市立新潟小学校),
雑賀真澄 (五泉市立五泉小学校), 北村宏 (五泉市立五泉中学校)
- B12) メディアが伝える情報の分析活動を取り入れた消費者教育の授業モデルの検討
高橋伸明 (岡山県総合教育センター), 宮脇康一 (墨田区立第四吾嬬小学校),
三宅美弥 (総社市立常盤小学校), 石井聡 (岡山市立伊島小学校),
影山知美 (津山市立弥生小学校), 長谷川陽子 (岡山県総合教育センター),
堀田龍也 (玉川大学)

●参加費用：参加費は無料ですが、研究会報告集の年間予約購読代金(3,500円)を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払いください。

●交通案内：公共交通機関をご利用ください

【JR徳島駅から】徒歩約20分。

徳島市営バス利用で約10分、「助任橋」又は「徳島大学前」下車。

【徳島空港から】徳島バスで約30分、「徳島大学前」下車。

詳細は <http://www.tokushima-u.ac.jp/article/0012050.html> をご覧ください。

●お知らせ：昼食時には生協食堂をご利用いただけます。

研究会の発表募集

テーマ： 教科教育学と教育工学の交差点／一般

●日時：2009年7月4日(土)

●会場：宮崎大学(担当：山口悦司)

●申込締切：2009年5月7日(木)

●原稿提出：2009年6月4日(木)

●募集内容：教科教育学と教育工学は、各教科の教育目標の達成や教育実践の変革に寄与するという共通の志向を持った学問です。今回の研究会では、教育工学の立場から教科教育にご興味をお持ちの方々、教科教育学の立場から教育工学にご関心をお持ちの方々を対象に、各種の開発・評価研究、各教科の実践研究などに関する発表を募集します。それぞれの研究発表を通して、2つの学問がいかに相互貢献できるのかを参加者全員で探りたいと考えています。また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法：研究会Webページよりお申し込みください。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してお申し込みください。尚、期限を過ぎた場合はキャンセルしていただく場合があります。

今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ(予定を含む)	開催場所
2009年10月24日	ICT活用の授業研究と教師教育／一般	信州大学
2009年12月19日	FDの組織化・大学の組織改革／一般	京都外国語大学
2010年03月06日	教育実践を指向した学習支援システム／一般	広島大学
2010年05月15日	情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般	北教大旭川校

●発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

●研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: study-group-core@jset.gr.jp

年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは1冊1,000円と割高になります)。年間5冊、合計1,100ページ前後で、各研究会平均37件程度(平成20年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル

TEL/FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の開催報告

●日時：2009年3月7日

●会場：椋山女学園大学

●発表件数：59件

●参加者数：130名

「ICTの教育活用と授業設計」というテーマのもと、ICTを活用した授業実践に関する研究、教員研修における教師のICT活用能力の育成に関する研究、またICT利用を支援する教材の開発や環境の整備に関する研究など、幅広い研究報告と活発な議論が行われました。当日は59件の発表と、130名余の参加をいただきました。途中、改修工事や防災放送テストが原因で電源が落ち、参加者の皆様、とくに発表者及び司会者の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。このような中でも、予定されておりましたすべての発表を終えることができましたのも、参加者の皆様のご協力のおかげです。改めて心より感謝申し上げます。

担当：亀井美穂子(椋山女学園大学)



2008年度 冬の合宿研究会 報告

「高等教育現場における教育技術を問う」と題した冬の合宿研究会が、2009年2月21日(土)と22日(日)の2日間にわたり、熊本県の山鹿温泉旅館細川にて開催されました。全国から26名の参加者が集まりました。

研究会は、21日13時に開会し、鈴木克明企画委員会副委員長の開会挨拶のあと、コーディネータの鳴門教育大学の村川雅弘氏から学校現場でのワークショップ型研修の事例紹介とともに今回のワークショップの趣旨説明がなされました。その後、6名の企画委員よりFD、eラーニング、学習評価、ICT利用、カリキュラムデザインなど多方面から教育技術を取り巻く話題が提供され、参加者はワークショップで討議したい内容と自らの名前を付箋紙に書き、黒板に貼り出しました。コーディネータによる整理の結果、「FD」「カリキュラムデザイン」「授業づくり」「ICT利用」「eラーニング」の5つのグループが編成されました。



FDグループでは、FDの領域は多様であり、教育工学が貢献しやすいものとそうでないものに分けられるのではないかという考えから「教育工学はいかにFDに貢献するか」というテーマを設定しました。教育工学が得意とするところは授業改善に関するものであり、授業のPDCAサイクルの各段階に即していくつかの具体案（授業モデルの例示、授業の振り返り、ICT活用など）を整理することができました。

授業づくりグループでは、効果的で魅力的な授業づくりを行うための要素を抽出・整理するために、メンバーが担当している講義・演習で行っている具体的な手だてを付箋紙に書き出しました。それらを模造紙上で分類整理した結果、デザイナーとしての教師（授業方略・授業目標の明確化）、アクターとしての教師（メディアの活用、実演・話し方の工夫、授業者学習者間インタラクション）、魅力的な活動（協働的活動、能動的活動、発表交流活動）、授業改善・学習評価（受講生の意見の収集と活用、リフレクション）、伴奏者としてのSA/TAの活用、等が見いだされました。

カリキュラムデザイングループでは、高等教育においても個々の授業改善以前に機関全体としてのカリキュラムマネジメントの重要性が指摘され、モデルに従い課題や方策を整理しました。例えば方策については、コンピテンシーに着目することによる専門性を超えた目標の共有化と実現化、自慢会のような組織による形成的・継続的なPDCAサイクルやチームワーキングによる組織人としての改善意識の喚起、小中高との連携など社会貢献的活動による目標やカリキュラムの見直しの促進、などのアイデアが抽出され整理されました。

ICT利用グループでは、演習でのグループウェア利用、大講義でのWBTの導入、映像教材の開発といった取り組みについて情報交換を行い、求められる教員のコンピテンシーとして、学生数に応じたブレンディング環境のデザイン、インタラクションのノウハウ、メディアの選択と効果的な利用の3つに整理しました。一方、教員のICT利用をきっかけにFDを活性化できるという方向と、大学

施設や教務のインフラとしてICTを整備する方向の両面が認識され、ICT利用はFDとして取り組んでいく必要があるという課題認識に至りました。

eラーニンググループでは、各自が取り組んでいること、抱えている課題、解決のアイデアを書き出し、eラーニングを普及させるにはどうすれば良いかを検討しました。その結果、1. 課題・導入目的の明確化、2. 向き不向きの見極め、3. 利点の明確化、4. 組織体制の整備、5. 利用ハードルの引き下げ、6. 運用実践、7. 実践評価、8. 意思決定者の説得、これらのサイクルを構築することが普及への近道だという結論に達しました。

各グループの活動は、討議時間終了後や翌日早朝にまで及んだグループもあり、テーマ相互の関連性や教育工学の役割にも議論が広がりました。また、夕食後には地元で開催中だった灯籠による町並みのライトアップ、明治期の芝居小屋での太鼓、灯籠踊りといったイベントの見学ツアーも旅館から提供され、多くの参加者が熊本・山鹿ならではの幻想的な時間を楽しむことができました。

翌日朝9時から、各グループの発表の後、宮田仁氏（滋賀大学教育学部）より、「ICTを活用した双方向参加型授業支援システムの評価に関する一考察」と題した講演が行われました。大人数の講義における双方向のコミュニケーションを確保する手法として、携帯電話、携帯用ゲーム端末(PSP)、最新のレスポンスアナライザーを用いた実践が紹介されました。学生の出席情報や課題に対する質問や意見などを収集し、それを瞬時に一覧表示させたり、キーワードに基づいて整理できる様子が紹介されました。この実践は、滋賀大の共通教育全体で実施されていて、その普及過程では、授業改善のためにICTを活用する必然性、教員の力量への影響を疑問視するなどの声もあり、意識の壁を感じたことが報告されました。インストラクショナルデザインの知識だけではなく、日本の学校教育の仕組みや学校文化を理解し、数量的、質的な分析ができるシステム開発・評価研究者を養成することで、開発者と授業者間の意識のズレを修正できるのではといった提案がされました。これらの報告について、参加者を交えて活発な意見交換が行われ、最後に、美馬のゆり企画委員会委員長の挨拶により閉会しました。

年度末の忙しい時期にもかかわらず積極的にワークショップに参加し、熱心に討議を展開された皆様のおかげさまで活発な合宿研究会となりました。深く感謝申し上げます。

文責：稲垣忠（東北学院大学）

2008年 度産学協同セミナー 報告

「職業的専門性としての教育学」 ～教育学を学ぶ・社会におくりだす・一緒に働く～

日時：2009年3月6日（金）13:30～17:00

会場：内田洋行 東京ショールーム

今回の産学協同セミナーでは、大学で教育学を学び、企業で活躍する若手の方々をお招きし、「教育学」が社会に果たす役割について議論を深めることができました。

大学院修了後に企業に就職した方（ベネッセコーポレーションの飛弾信崇氏、ジャストシステムの山本雅之氏、内田洋行の山田智之氏）、社会人から大学院に入学された方（内田洋行の清水悦幸氏）、起業された方（HUBネットワークスの米川孝宏氏）、計5名から話題提供がありました。その後、学生を送り出す側の大学研究者として熊本大の鈴木克明氏、受け入れる側の企業経営者として内田洋行の大久保昇氏から講演をいただき、フロアを交えての討議に移りました。セミナー全体を通じ、教育学の学問的・研究的価値が再認識された貴重な機会でしたが、一方で、教育学の専門性を持った学生を配置するポストが企業側になく、その知識・経験をストレートに生かすことができないといった課題も出されました。また、社会的ニーズや情勢に合致した人材が、教育学分野から創出できているかについての評価・フィードバックがないといった点も指摘されました。今後は、多様性と専門性を兼ね備えた教育学が今後社会に対してどういったアプローチが必要となるかについての議論が必要であると考えられます。



当日の参加者は、企業関係者や大学の研究者がほとんどでしたが、企業関係者からは「新入社員に聞かせたい内容であった」、大学の研究者からは「学生（特に大学院生）に将来的なビジョンを持たせるため、学生時代の学びの価値を実感させるために聞かせたかった」という意見が出されていました。職業的専門性を持った人材育成に教育学がどう関わっていくべきかについて、今回の議論の盛り上がり消すことなく、今後につなげて行きたいという思いを双方で確認し、盛会の中でセミナーを閉じることができました。

文責：豊田充崇（和歌山大学）

第12期第15回理事会議事録

日時：平成21年03月21日（土）14:40～16:20

場所：キャンパス・イノベーションセンター 8階 806号室

出席：赤堀侃司会長、永野和男副会長、矢野米雄副会長、赤倉貴子、大久保昇、小柳和喜雄、木原俊行
澤本和子、清水康敬、中山 実、東原義訓、堀田龍也、美馬のゆり、室田真男、山内祐平

事務局：服部、磯野

1. 第12期14回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について承認した。

(1) 新入会員： 6名（正会員：3名、学生会員：3名）

(2) 退会会員： 47名（正会員：29名、学生会員：13名、准会員：5名）

(3) 種別変更： 102名（正会員へ18名、学生会員へ2名、准会員へ82名）

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会

清水編集長から、資料に基づいて、論文誌（和文誌、英文誌）の発行スケジュールが説明された。

特集号の査読進捗状況、2010年度の特集号企画状況、システム開発論文及び教育実践論文の査読ガイドライン等について検討したことが報告された。

(2) 研究会委員会

堀田委員長から、3月7日の研究会開催、及び5月16日に徳島大学での応募状況について報告があった。

次期、研究会委員会の委員人選を進めていることが説明された。

最近の発表件数の増加に伴い、研究会資料の当日頒価について検討することにした。

(3) 企画委員会

美馬委員長から、冬の合宿開催、産学協同セミナーの実施報告があった。

大久保理事から、産学協同セミナーの詳細報告があった。

(4) 大会企画委員会

東原委員長から、大会課題研究のテーマを募集し、大会実行委員会で検討していること、大会論文集CD形式変更のために原稿提出形式の変更、ワークショップの開催内容について検討状況が報告された。

大会参加費については、昨年度と同額とすることにした。

(5) 選挙管理委員会

澤本委員長、室田委員から、役員選挙の開票結果について報告があり、これを承認した。

監事については、非改選監事が理事として選出されたので、監事の次点者は2年任期になることと報告された。

また、非改選評議員3名が理事として選出されたので、会長指名評議員8名のうち3名は2年任期になることと報告された。

(6) 国際交流委員会

赤堀会長から、8月7～8日に中国の教育工学会と日中教育工学研究会を中国・長春で開催する予定であり、日本から数名を派遣することが報告された。

中国の教育工学協会から8月18日に招待があり、永野次期会長が出席する予定であることが報告された。

韓国教育工学会の大会に参加依頼があり、赤堀会長が出席することが報告された。

(7) 総務・会計

各種委員会の経費、理事会交通費について、3月末までに確認するよう依頼があった。

(8) 広報委員会

赤倉委員長から資料に基づいてJSETニューズレター164号、165号台割案が示され、ページ数の構成について検討した。

4. その他

(1) FD特別委員会について

永野副会長から、現時点で51名の応募があったことが報告された。

(2) 後援名義使用の承諾について

・2009PCカンファレンス(コンピュータ利用教育協議会)

(3) 協賛名義使用を承諾について

・第25回ファジィシステムシンポジウム(日本知能情報ファジィ学会)

・高校教科「情報」シンポジウム2009年春・ジョーシン09春((社)情報処理学会)

・教育システム情報学会第34回全国大会「知識社会を支える教育システム技術」(教育システム情報学会)

(4) 本学会への広報を確認した。

(5) 今後の理事会

第12期第16回理事会 2009年05月09日(土)14:40～16:40 CIC 806号室

以上

新入会員 (2009年1月20日～2009年3月16日)

■正会員 3名

添野 正 (栃木県立今市工業高校)
村井 潤一郎 (文京学院大学)
上野 直樹 (武蔵工業大学)

■学生会員 3名

神邊 篤史 (広島市立大学大学院)
東田 珠貴 (神戸大学大学院)
松橋 秀親 (熊本大学大学院)

学会日誌

2009年

5月 6日(水) ニュースレター 164号発行
5月 9日(土) 理事会
5月16日(土) 研究会「ICTを活用したFD」(徳島大学)
6月20日(土) 通常総会及びシンポジウム (東京大学)
6月24日(水) ニュースレター 165号発行
7月 4日(土) 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学)
9月19日(土)～21日(月) 第25回全国大会 (東京大学)
10月24日(土) 研究会「ICT活用の授業研究と教師教育」(信州大学)
12月19日(土) 研究会「FDの組織化・大学の組織改革」(京都外国語大学)

2010年

3月 6日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」(広島大学)
5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」(北教大旭川校)

国際会議の案内

2009年

ED-MEDIA <http://www.aace.org/conf/edmedia/> (6/22-26 Honolulu)
E-Learn <http://www.aace.org/conf/eLearn/> (10/26-30 Vancouver, Canada)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長：清水康敬，広報委員長：赤倉貴子，広報副委員長：宮田 仁，
委員：矢野米雄，伊藤剛和，香山瑞恵，神月紀輔，皆川 武，三輪吉和
E-mail : kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No. 164

2009年05月06日 発行人 赤堀 侃司
発行所 日本教育工学会事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail : office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp/> 郵便振替 00180-2-539055